

令和2年度第1回千葉県地域リハビリテーション協議会開催結果概要

- 1 日時 令和2年9月3日(木) 午前10時～11時
- 2 会場 千葉県教育会館3階303会議室
- 3 出席者 協議会員総数16名中14名出席
荒井泰助協議会員、井上創協議会員、岩本明子協議会員、内山弘子協議会員、大野由記子協議会員、菊地尚久協議会員、小宮あゆみ協議会員、玉元弘次協議会員、中頭賢志郎協議会員代理今野和成氏、外口徳章協議会員、平山登志夫協議会員、前田久美子協議会員、村田淳協議会員、山崎潤子協議会員(50音順)
オブザーバー1名出席(田中康之氏:県リハビリテーション支援センター)
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
 - (3) 議題
 - ア 会長の選出について
 - イ 地域リハビリテーション広域支援センターの指定(選定)について
 - (4) 報告
 - ア 令和2年度千葉県リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センターの活動計画及び活動状況について
 - イ 「ちば地域リハ・パートナー」の指定状況及び前年度活動結果について
 - ウ 地域リハビリテーション出前講座の実施予定について
 - (5) その他
 - (6) 閉会
- 5 会議結果概要
 - (1) あいさつ
大野健康づくり支援課長よりあいさつ
 - (2) 議題
 - ア 会長の選出について
協議会員の互選により、千葉県リハビリテーション支援センター長である菊地協議会員が選出された。
 - イ 地域リハビリテーション広域支援センターの指定(選定)について
資料1から資料1-7により事務局より説明。
なお、資料1-7は、千葉県情報公開条例第8条第6号の不開示情報であるため、同条例第27条の3に基づき、公開しないことと決定した。
指定(選定)に関することについては、事務局説明のとおり協議会の了承を得た。
 - (3) 報告
 - ア 令和2年度千葉県リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センターの活動計画及び活動状況について
資料2により事務局より説明。
 - イ 「ちば地域リハ・パートナー」の指定状況及び前年度活動結果について
資料3により事務局より説明。
 - ウ 地域リハビリテーション出前講座の実施予定について
資料4により事務局より説明。

報告については、質問・意見等は無かった。

(4) その他

令和元年度第1回の協議会（書面開催）で、ちば地域リハ・パートナーと広域支援センターの協働を見学したいとの要望が協議会員からあったことについて、今年度の予定を把握・検討したいことを報告したところ、以下のとおり質疑があった。

荒井協議会員 広域支援センター、ちば地域リハ・パートナーともに新型コロナ禍において、活動が非常に困難な状況にあり、WEBでの会議開催など、いろいろ模索している状況だと思う。ちば地域リハ・パートナーが単独で、WEBシステムに必要な契約をし、独自の力で対応するのは、非常に難しいと思っており、例えば広域支援センターで契約したものを相互利用できるとか、広域支援センターと協力してWEBシステムの使用環境を整えたりやり易くなると思う。コロナ禍で様々な制約がある中で、広域支援センターもいろいろ苦慮されていることがあると思うので、情報を共有していただくとよいと考える。

千葉リハ田中部長

県支援センターの立場から、ZOOMなどのアカウントの共同利用については、県健康づくり支援課と契約上の問題がないか相談が必要なことと思う。

県支援センターとしてのモデル的な取り組みとして、地域リハ・パートナーの方々が、地域という分野での働き方や働きかけというものがどのようなことか理解を深めていただくことも必要と考える。現在活動が休止している状況の中で、再開するまでにはそのあたりの共通認識をもっていただけるように、ZOOMを使って積極的にグループワークしながら、皆さんの意見を集約したり、皆さんに啓発をする取り組みをしている。

各広域支援センターにも参加いただき、5月、6月に行ったが圏域ごとに、訪問リハ、通所リハ、地域包括支援センターに声をかけ、それぞれの事業所さんにWEBに参加していただいて、実際の状況、緊急事態宣言下での活動がどのようなものであったかを情報共有していただく場を設定した。コロナ禍において、他の事業所がどのように対応しているのか、様子が分からない。情報を共有する場がない。県支援センターとしてできることはないか。ということで、そのような場を設けることとなった。広域支援センターにも参加していただいており今後、広域支援センターがこれをきっかけに動いていただければと思っている。

また、県支援センターとしてサポートしますとお伝えしている。皆さんに少しでもモデル的なものをお示しできることに取り組んでいる。

また、今まで以上に圏域を超えての動きとなってくるので、例えば千葉の広域支援センターがポッチャの啓発ビデオを作成している。他の圏域での利用などもできるのではないかと思う。

最後に、コロナ禍において他県の情報が集めやすい。対面だと1年に2回が限度であるところが、WEB会議で他県との情報交換を1ヶ月に2回ずつ、地域リハの事業が停滞している中で動きについて意見交換を行っている。集約したら皆さまに情報提供したい。4月は模索、5月から走りだして、いったん上半期の情報を皆さんに提供できるかなと思っている。